

児童の委員会、チームワークで活動中

学校統合で900万点達成、岩手・山田町立山田小



ベルマーク委員会のみなさん。後列左端が三浦秀行校長、その隣が米澤久美子先生、後列右端が森内俊彦先生

岩手県山田町にある町立山田小学校（三浦秀行校長、348人）は、これまで集めたベルマークの点数が900万点を超えました。4月に周辺の6校が統合して創立し、そのうち山田南小、山田北小、大沢小、織笠小がベルマーク運動に参加していたことから預金が合算されました。県内で累計900万点に到達した学校は初めてです。

上記4校は、多くのマークを集めてきたと同時に、財団の東日本大震災被災校支援の対象校でもありました。震災は町にも深刻な影響をもたらし、現在の校舎である旧山田南小も「当時は学校、消防署、病院、避難所として重要な役割を担った」と三浦校長が教えてくれました。

学校の最寄り駅は、三陸鉄道リアス線の陸中山田駅。駅は震災後に建てられた新しい駅舎です。駅から山田小までは約10分、平らな道を歩きます。道のりの半分ほどは、比較的新しい住宅や店が立ち並び、舗装されて間もない道路が続きます。この地域は津波だけでなく、プロパンガスの爆発などにより火災も発生し、復興・再整備には長い時間を要したそうです。

旧山田南小では、毎年3月11日に“希望と絆の会”が行われてきました。学校には、震災遺族から寄贈された

2本の寒緋桜があり、“希望の木”“絆の木”と名付けられています。その経緯などを、全校集会を開いて子どもたちに伝えてきたそうです。「統合しても、語り継ぐことは続けていきたい」と、三浦校長は話しました。

統合後の学校運営については、先生方が話し合いを重ね、ベルマーク活動は児童のベルマーク委員会が行うことになりました。

8月下旬、委員会活動がありました。この日の活動内容は、貯めたベルマーク預金を使って何を買うか決めること。予算は1学級5000円です。「ボールなら2、3個は買えるね」「これは高すぎるね」とお金の計算もします。この日選んだ品物の中から、各学級で何を買うか決めてもらい、先生が発注します。届いたら委員会のメンバーが記名をして学級に配るそうです。

マークの仕分けも児童が担当しています。担当の米澤久美子先生は、「これまで経験のない子も慣れてる子も協力して活動している。中には、自ら休み時間や朝の時間を使って仕分けしてくれる子もいる」といいます。

西川生紗さん(6年)は、5年生のときにベルマークに関わって楽しかったことから今年、委員長に立候補しま



⑤お買いに欲しいものを書いて、お買いものガイドに貼っていきます ⑥校庭でも教室でもみんなが仲良く遊べるものは何だろうか？ ⑦若手県の三陸海岸沿いを走る三陸鉄道。NHKの朝ドラ「あまちゃん」で一躍有名となりました

した。「仕分けにはチームワークが必要。みんなで最後まで作業が出来たとき嬉しい」と話します。副委員長の佐々木七海さん(6年)は今年初めてベルマーク委員になりました。細かい作業が好きで、活動は楽しいようです。

山田小には、遠方のボランティア団体からマークが寄贈されることもあるそうです。三浦校長に今後、マークを使って購入したいものをうかがうと「実際に1年間経過してみないと、何が必要になるかわからない。いざ欲しいものが出てきたときに、すぐに使えるベルマークはとても心強い」と話してくれました。

見学、発表会、研修…バス代を活用

2019年度東日本大震災支援、岩手県中学校長会が報告

昨年度、ベルマーク財団が東日本大震災被災校支援として生徒が移動するためのバス代を援助した岩手県内の中学校の報告書が届きました。貼付された写真からは、ベルマーク運動によって生み出された支援金が、実際に子どもたちの学校生活に活かされた様子を具体的に知ることが出来ました。

大船渡市立赤崎中学校(菅生裕之校長)は、2つの行事にバス代を活用しました。1年生の気仙地区中学校総合文化祭の見学と、3年生の総合的な学習「防災教育・避難所運営体験事前学習」です。学校から車で約30分の場所にある、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」を訪れまし

た。“命を守り、海と大地と共に生きる”をテーマに、被災地の歴史、事実と教訓、そして復興までの流れを常設で展示している施設だそうです。



大船渡市立綾里中学校(奥田昌夫校長)では、バスを使って、市内の全中学校が参加する音楽発表会に行きました。同校では、毎年全校生徒で参加しているため、2台分使う必要があります。報告書には、「約30分の距離ですが、バス代も高くなっているため大変助かっています」と書かれていました。



陸前高田市立高田東中学校(昆野賢寿校長)では、2年生の宿泊研修に活用されました。盛岡市内に1泊し、商業施設での陸前高田市PR活動や、班ごとに公共交通機関を使っての自主学习で学びを深めることが出来たといいます。



野田村立野田中学校(南隆人校長)の3年生の行き先は、発生から25年が経った阪神淡路大震災の被災地である兵庫県西宮市。震災が起きた1月17日に西宮震災記念碑公園を訪れ、花を手向けました。

18日には、8年前から交流を続けている西宮市立浜脇中学校との「被災地きずなコンサート」が開かれました。野田中は3年生30人による復興太鼓を、浜

脇中は合唱部と吹奏楽部による演奏を披露しました。両部は、東日本大震災支援のため、現地でチャリティーコンサートを開催したことがあるそうです。



昨年度、財団は東日本大震災被災校支援として、岩手・宮城・福島3県の小中学校139校に総額1200万円相当を支援しました。参加団体による「お買いもの」、ベルマーク預金を直接寄付にあてる友愛援助、参加団体以外からも寄せられる寄贈マーク、さらにウェブベルマーク運動による助成金も援助につながります。団体、個人を問わず運動に協力して下さる全ての皆さんに、改めて感謝いたします。